

エコアクション 21 環境経営レポート

令和 5 年度

活動期間（令和 5 年 7 月～令和 6 年 6 月）



再資源に大きく貢献する



(有) 執行チップ工業

令和 6 年 9 月 30 日作成

目 次

1.環境経営方針	・ ・ ・ P1
2.組織の概要（実施体制含む）	・ ・ ・ P2～5
3.環境経営目標	・ ・ ・ P6
4.主な環境活動計画の実施内容	・ ・ ・ P7
5.環境経営目標の実績、環境経営計画の取組結果とその評価	・ ・ ・ P8
6.次年度の取組内容 （環境経営目標及び環境経営計画）	・ ・ ・ P9
7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び 結評価果並びに違反、訴訟等の有無	・ ・ ・ P10
8.代表者による全体の評価と見直し・指示	・ ・ ・ P10

【環境経営方針】

基本理念

当社は産業廃棄物・一般廃棄物の樹木,剪定枝,除草,竹,根株,パレット等を元に、100%再資源化に取り組み、環境負荷の低減を推進した事業活動を行ないます。

行動方針

1. 環境経営システムを構築し、環境負荷の低減を継続的に推進する為に、次の事項を重点的に取り組み、環境経営の継続的な改善を行います。
 - ①二酸化炭素排出量の削減のため使用エネルギーの削減に努めます。
 - ②節水に努めます。
 - ③廃棄物の 100%再資源化に努めます。
 - ④環境保全の取組みに努めます。
2. 関係する環境関連法規を遵守します。
3. 地域社会とのコミュニケーションを図り、清掃活動やボランティア活動に努めます。
4. 環境経営方針を全従業員に周知徹底します。

制定 平成 24 年 8 月 10 日

改訂 令和 2 年 12 月 1 日

有限会社 執行チップ工業

代表取締役 執行 浩

2.組織の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 執行チップ工業
代表取締役 執行 浩

2) 所在地

佐賀県鳥栖市江島町 3255-264

3) 環境管理責任者氏名及び担当連絡先

環境管理責任者及び担当者 執行 浩
TEL : 0942-83-4750 FAX : 0942-83-0966

4) 事業活動の内容

産業廃棄物処分業（中間処理）、一般廃棄物処分業（中間処理）、
特殊肥料生産・販売業

5) 事業の規模

設 立：昭和 48 年 （法人設立 平成 8 年 10 月 16 日）
資 本 金：8 百万円
売 上 高：令和 5 年度 売上高区分 A（5 億円未満）
処理実績：令和 5 年度 収集運搬量 0 t
中間処理 13,173 t（産廃 11,984t、一廃 1,189t）
従業員数：6 人
事業年度：7 月～翌 6 月

6) 認証・登録の範囲

全組織・全活動・全従業員

7) 処理料金

ご依頼内容ごとに、お見積いたします。



8) 許可一覧

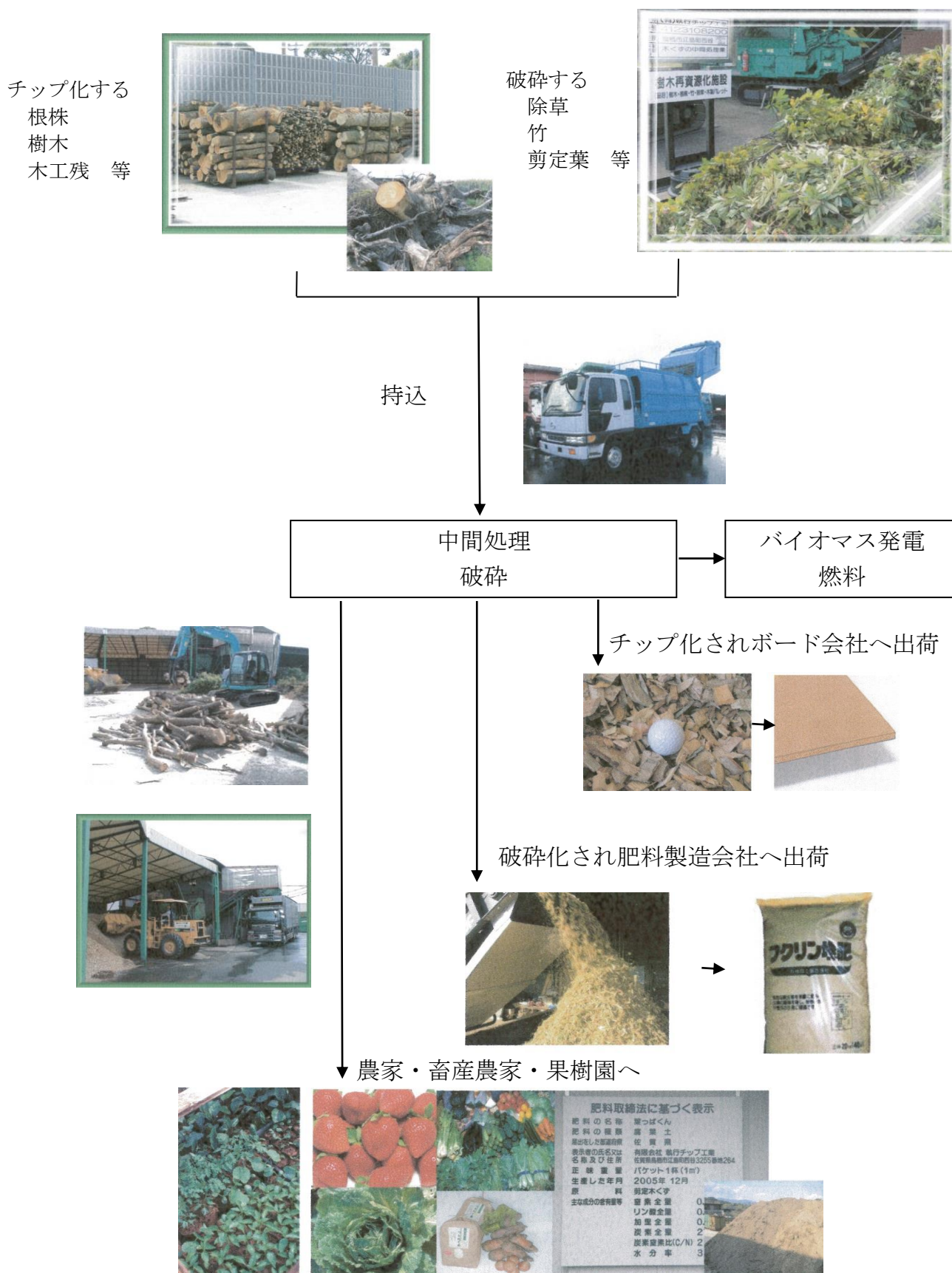
許可の種類	許可番号	許可の年月日及び 有効年月日	産業廃棄物の種類
産業廃棄物処分業 佐賀県	04123108200	令和 6 年 3 月 11 日 令和 11 年 3 月 10 日	木くず (破碎)
産業廃棄物収集運搬業 佐賀県	04103108200	令和 6 年 3 月 11 日 令和 11 年 3 月 10 日	木くず (積保：なし)
一般廃棄物処分業 鳥栖市	第 3 号	令和 6 年 4 月 1 日 令和 8 年 3 月 31 日	根株、伐採木、末木枝条、 草
一般廃棄物収集運搬業	第 22 号	令和 6 年 4 月 1 日 令和 8 年 3 月 31 日	木くず (木製パレットを除く)

9) 施設の状況

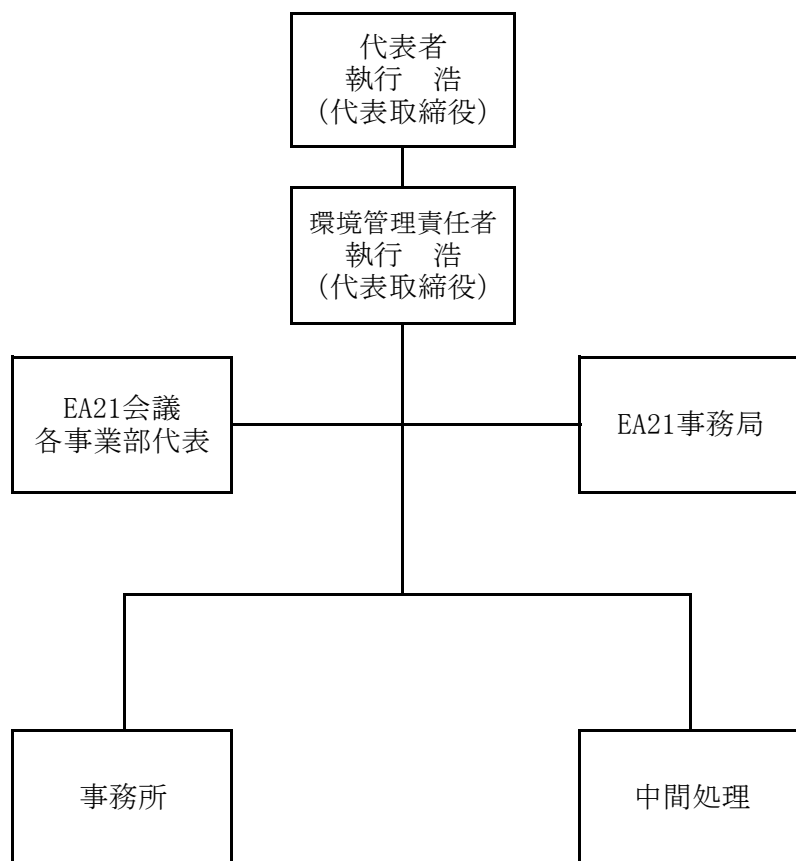
種 類	仕 様	名 称	台 数
収集運搬車	2 t 車	ダンプ	1 台
フォークリフト	4.5 t	—	2 台
ホイールローダー	2.0 m ³	—	1 台
バックフォー	0.25 m ³	—	3 台
	0.45 m ³	—	2 台
タイヤショベルカー	1.3 m ³	—	1 台
破碎機	50.6t/日(8H)	2 号機	1 台
	74.0t/日(8H)	3 号機	1 台
	74.0t/日(8H)	4 号機	1 台

10)処理工程

(有)執行チップ工業の中間処理再資源化フローチャート



11) 取組みに係わる実施体制



所 属	役割・責任・権限
代表者	全体の統合・環境経営方針の設定。全体の評価と見直し・指示
環境管理責任者	環境経営目標・環境経営計画書の確認
EA21事務局	環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う
EA21会議 (月初めの月曜日朝礼時に行う。)	水使用量の管理、電気使用量の管理
	トラックの点検、整備、省エネドライブ励行
	電気管理(消灯・冷暖房等)、廃棄物管理(コピー、FAX用紙削減、紙類リサイクルの推進、ガソリンの管理)
	重機等の点検、整備、軽油の管理

3.環境経営目標

環境負荷の調査結果により、当社の環境目標を下記のように設定した。

目標設定の基準は令和元年度の数値データを使用。

事業年度は「7月1日～翌年6月30日」

環境目標		単位	令和元年度 (基準年度)	令和2年度 目標 [1%]	令和3年度 目標 [1.5%]	令和4年度 目標 [2.0%]	令和5年度 目標 [2.5%]
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	168,377	166,693	165,851	165,009	164,167
	1-1 電気使用量の削減	kWh	11,899	11,780	11,721	11,661	11,602
	1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ	318	315	313	312	310
	1-3 軽油使用量の削減	ℓ	62,196	61,574	61,263	60,952	60,641
2	廃棄物の再資源化	%	100%	100%	100%	100%	100%
3	水使用量の削減	-	節水活動・雨水利用	節水活動・雨水利用	節水活動・雨水利用	節水活動・雨水利用	節水活動・雨水利用
4	環境保全の取組	-	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産
5	地域社会への貢献	-	清掃活動・ボランティア活動	清掃活動・ボランティア活動	清掃活動・ボランティア活動	清掃活動・ボランティア活動	草刈り5回、 道路清掃2回

備考：・[]内％は、基準年度実績をベースとして削減率を示す。

- ・購入電力の排出係数は、2019年度九州電力調整後排出係数 0.371kg-CO₂/kWhを使用。
- ・当社は化学物質の使用はありません。
- ・水使用量は雨水及び地下水運用を含む。

4.主な環境経営計画の実施内容

1. 二酸化炭素排出量の削減(全員)

取組目標		活動項目	
1	電気使用量の削減	1	空調の適温化(冷房28度、暖房20度程度目安)を徹底する
		2	空調を必要な区域・時間に限定して行う
		3	モニター類の稼働時間以外offの習慣付け
2	ガソリン使用量の削減	1	目的地を設定し最短ルートを選択習慣付け
		2	アイドリングストップ手順を決め、実行する
		3	定期点検の実施
3	軽油使用量の削減	1	稼働時間以外のフルスロットルの中止
		2	破砕機への量の投入習慣付け
		3	整備点検の実施

2. 廃棄物の再資源化(全員)

取組目標		活動項目	
1	100%再資源化	1	取引先へも分別の協力を願う
		2	全従業員で分別100%を行なう
2	自社廃棄物の排出抑制	1	分別によるリサイクルの推進
		2	コピー用紙の裏紙使用

3. 水使用量(全員)

取組目標		活動項目	
1	節水活動	1	洗車の際にはバケツを使用するなどし、流しっぱなしをしない
		2	散水は雨水を利用する
		3	水道の閉め忘れがないよう徹底する

4. 環境保全の取組(全員)

取組目標		活動項目	
1	環境保全の取組	1	受入時の搬入品の目視確認を徹底する
		2	破砕前の異物、有害物の分別・除去を徹底する

5.地域社会への貢献(全員)

取組目標		活動項目	
1	清掃活動・ボランティア活動	1	環境美化活動に積極的に参加する
		2	環境教育の実施(社内勉強会)

5.環境経営目標の実績、環境経営計画の取組結果とその評価

1)環境経営目標の実績

環境目標	単位	活動期間 令和5年度 (令和5年7月～令和6年6月) 目標値	活動期間 令和5年度 (令和5年7月～令和6年6月) 実績値	判定
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	164,167	112,437	○
1-1 電気使用量の削減	kWh	11,602	10,471	○
1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ	310	316	×
1-3 軽油使用量の削減	ℓ	60641 (1,222t)	41790 (1,984t)	○
2 廃棄物の再資源化	%	100%	100%	○
3 水使用量の削減	m ³	節水活動・雨水利用	節水活動・雨水利用	○
4 環境保全の取組		有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	実施	○
5 地域社会への貢献		清掃活動・ボランティア活動	実施	○

備考： 購入電力の排出係数は、2019年度九州電力調整後排出係数 0.371kg-CO₂/kWhを使用。

当社は、化学物質の使用はありません。

水使用量は雨水及び地下水運用を含む。

()内は年間粉砕量(中間処理量)を示す。

2)環境経営計画の取組結果とその評価 (実施体制:全員で活動を行う)

環境目標	評 価	
1 二酸化炭素排出量の削減	○	二酸化炭素排出量の97%を占めるのは、軽油使用量だが、しっかり取り組むことが出来た。今後も継続していく。
1-1 電気使用量の削減	○	目標は達成できたが、節電を意識し、今後も継続する。
1-2 ガソリン使用量の削減	○	エコドライブ等心がけ今後も継続する。
1-3 軽油使用量の削減	○	受入種類でも変わるが、全員で意識して削減活動に取り組んでいく。
2 廃棄物の再資源化	○	搬入業者への呼びかけや協力もあり達成出来ている。 今後も続けていくよう努力も継続する。
3 節水活動	○	粉塵対策としては雨水の利用を行っている。今後も節水に努める。
4 環境保全の取組	○	目視確認、分別等現在出来ているので今後も継続していく。
5 地域社会への貢献	○	環境美化活動に積極的に参加することが出来た。今後も継続していく。

6.次年度の取組内容(環境経営目標及び環境経営計画)

1) 環境経営目標

事業年度は「7月1日～翌年6月30日」

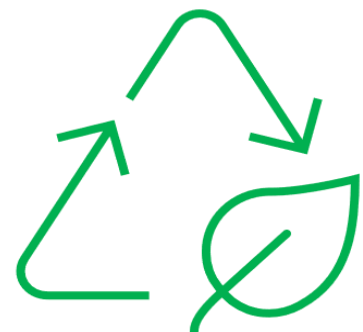
環境目標		単位	令和5年度 (基準値)	令和6年度 〔1%〕	令和7年度 〔1.5%〕	令和8年度 〔2.0%〕	令和9年度 〔2.5%〕
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	134,924	133,575	132,901	132,226	131,551
	1-1 電気使用量の削減	kWh	12,565	12,440	12,377	12,314	12,251
	1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ	379	375	374	372	370
	1-3 軽油使用量の削減	ℓ	50,148	49,647	49,396	49,145	48,894
2	廃棄物の再資源化	%	100%	100%	100%	100%	100%
3	水使用量削減	—	節水活動・ 雨水利用	節水活動・ 雨水利用	節水活動・ 雨水利用	節水活動・ 雨水利用	節水活動・ 雨水利用
4	環境保全の取組	—	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産	有害物質を含まない受入管理 環境に配慮した製品の生産
5	地域社会への貢献	—	草刈り5回、 道路清掃2回	草刈り5回、 道路清掃2回	草刈り5回、 道路清掃2回	草刈り5回、 道路清掃2回	草刈り5回、 道路清掃2回

備・〔 〕内%は、基準値からの削減率を示す。

- ・基準値は令和5年度の実績をベースに今後の事業計画・処理計画に基づき実績値の20%アップとして設定した。
- ・購入電力の排出係数は 2019年度九州電力CO₂調整後排出係数 0.371kg-CO₂/kWhを使用。
- ・当社は化学物質の使用はありません。

2) 環境経営計画

- 二酸化炭素排出量の削減の為の取組
今回取り組んだ内容は今後も続けて取り組む予定。
破碎機への量の投入習慣付等意識する。
- 廃棄物の再資源化の為の取組
今回取り組んだ内容は今後も続けて取り組む予定。
新規事業者への協力をもう一度確認する。
- 水使用量の削減のための取組
今回取り組んだ内容は今後も続けて取り組む予定。
- 環境保全の取組
有害物質を含まない受入管理、環境に配慮した製品の生産を引き続き行っていく。
- 地域社会への貢献
今回取り組んだ内容は今後も続けて取り組む予定。(草刈り5回、道路清掃2回)
環境教育の実施(社内勉強会)の検討。



7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、

- | | |
|---------|---|
| ・廃棄物処理法 | 排出事業者として、一般廃棄物の排出
処理業者として、木くずの破砕に関して |
| ・消防法 | 特定指定可燃物(木材加工品(チップ)及び木くず) |
| ・オフロード法 | 重機に関して |
| ・肥料取締法 | 特殊肥料 |

等があります。

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局より違反の指摘、利害関係者からの訴訟もありません。

今後においても、環境関連法規・条例を理解した上で、管理運営に努めます。

8.代表者による全体の評価と見直し・指示

環境経営システムが有効に機能している。

環境経営目標を持ち活動出来たと思う。

ミーティングにより意見交換を行い全員の意識向上に努めた。

環境への取組は適切に実施している。

環境経営目標はおおむね達成できた。

今後もソフト面(運用面)でも引き続き削減に取り組んで行きたい。

また、再資源化100%の目標は、本業での一番の環境貢献だと考えるため、引き続き力を入れて取り組んでいく。

昨年度は破砕機の更新を行った。

破砕機の更新については、業務上の課題でもあり、

(故障すれば受入は出来ず、業務は止まり、お客様は他社へと流れる。)

また、環境負荷及びパフォーマンスの向上の課題でもあった。

新しい破砕機を導入したことで、生産性の向上や環境パフォーマンスの向上に成果が出てきている。

異物の混入削減については、今後も継続していく。

地域社会への貢献は、草刈りと道路清掃回数を設定し取り組んだ。

変更の必要性

環境経営方針、環境経営目標、環境経営動計画、実施体制を含む、

環境経営システム等変更の必要性の指示はない。

令和6年度は、中長期目標のスタートとなるため、次のステップへ向けての検討を行う。

以上